

ツタモノナドモアツテ其レガ如何ニ天然自然ノ靈妙ナ動キニ原因スルニシテモ中肋トモアラウモノ、行動トシテハ面白イコトデアツテ中肋ハ側枝分生スルト云ノコト以外ニ中肋自カラモ亦タ分離性ヲ持ツテ居ルモノデ此現象ガ進行シタ場合各分離シタ中肋ヲ中心トシテ金魚ノ尾式ノ分裂ヲナス原因ノ一ツト考ヘラレナイデモナイ、シカシソレハ余一已ノ推測デアツテ勿論言ヒ過ギデハアルニ相違ナイ、從ツテコノ葉脈分離ノ現象ヲ之ニヨリ説明シタノデアルトハ言ハナイガ事ノ序ニ余ノ直感シタ氣分ヲ述べサシテ頂イタマデノコトデアルノダ

○中等教科書ノ薬用植物

清 水 藤 太 郎

中等植物教科書トシテ一般ニ行ハルモノ十種以上モアルガソレニ記載スル植物ノ薬用關係ヲ調査スルニ吾人ノ興味ヲソソルモノ頗ル多イ、先ヅ藥用植物ノ範圍デアルガ之ハ中々六ヶシイ、支那ノ本草綱目ナドヲ見ルト萬物薬品ナラザルナシデアル、從

今表題ノ目的トシテハ

一、醫師ノ一般ニ用ヒルモノ

い、西洋醫學ニ於テ使用スルモノ

ろ、西洋醫學ニ於テ用ヒルモノニ我國ニ於テ代用使用スルモノ

は、漢法醫學ニ於テ使用スルモノ

二、民間藥傳說經驗其他ニヨリ民間ニテヨク使用スルモノニシテ醫師ハ一般ニ使用セザルモノ
此四種ニ限局シタイ、いろは何レニモ跨ルモノモアル、而シテ中等教科書トシテ此等多數ノ藥品ヲ幾何ノ程度ニ制限スベキヤハ相當考慮ヲ要スル問題デアル

今本年度ニ改版セル乙表準據植物教科書ノ代表的ノモノトシテ次ノモノヲ調査シタ

A	藤井健次郎著	中等植物教科書
B	東京開成館	中等新植物
C	三好學著	植物新教科書
D	小泉源一著	植物教科書
E	大日本圖書會社	新制植物學
F	三省堂	中等植物教本
G	桑田義備著	中等植物學
H	郡場、湯淺共編	動植物教科書
I	柴田桂太著	植物教科書
J	川村清一著	植物教科書(昭和四年版)
K	纈纈理一郎著	植物教科書(昭和三年版)

元來藥用植物ニハ

- 一、其全部又ハ一部ヲ其儘用フルモノト
- 二、製藥ノ原料ニノミ用フルモノト
- 三、其何レニモ用フルモノト

三種アル、又有毒植物ハ時ニ藥用植物ニナルガ藥用植物ハ必ズシモ有毒植物デハナイ、此等ノ書ニ藥用トシテ

第一、い、西洋醫藥
擧グラレタモノヲ分類表記スレバ

次ノ如クデアル、○○印ハ重要ナル藥用植物、○印ハ外國產

◎きなのか

○けし

○だぎたりす

○くすのき

○はくか

○むしよけざく

○たうごま

○しなよもぎ

○さふらん

○かみつれ

○をしだ

○かんざう

○あらびやごむのき

○だいわう

ひかげのかづら
せんな

○まくり

+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	A
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	B
	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	C
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	D
	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	E
		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	F
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	G
+			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	H
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	I
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	J
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	K

◎とこん
○にくけい
○あめりかありたさう
○せねが
○げんちあな
○あんず
○やらぱ
○麥角

○あれいふ

ろ、代用藥

○りんだう

○わうれん

○せんぶり

○はしりどころ

てうせんあさがほ

は、漢方藥

○にんじん

○まくり

+	+		+	+									+
+			+	+									
+			+	+	+								
+			+	+	+	+							
+						+							
+													+
+							+						
+								+					
+									+				
+										+			
+											+		

○せんきう
○すひかづら
○あほばこ
○たうき
○げんのしょうこ
○んにく
にはとこ
さくら
あせび
○どくだみ
有毒植物トシテ舉グラ
第一、い、西洋醫藥
○たうごま
○まちん
ろ、代用藥
てうせんあさがほ
○はしりどころ

+	+	A	タ	+	+	+
+	+	B	モ	+	+	+
+	+	C	ノ	+	+	+
+	+	D	ハ	+	+	+
+	+	E				
+	+	F				
+	+	G		+		
+	+	H			+	
+	+	I			+	+
+	+	J			+	+
+	+	K			+	+

○	とらかぶと
○	てんなんしゃう
○	からすびしゃく
○	やまごばう
第二、	民間薬
あせび	ひがんばな
	くさのわう
薬用	ニセザルモノ
どくうつぎ	しきみ
どくぜり	きつねのぼたん
	きんぽうげ
	たけにぐさ
	まむじぐさ
	たがらし
	どくむぎ

れんげつつじ
とうだいぐさ
けふちくたう
をとこぜり

うたうるし
うまのあしがた
いねほほづき
ふぢうつき

$$\begin{array}{r}
 0.000000000000000 \\
 0.000000000000000 \\
 + \\
 0.000000000000000 \\
 \hline
 0.000000000000000
 \end{array}$$

以上ヲ通覽スルニ吾人業ヲ薬ニ親ムモノノ大ニ遺憾ニ堪ヘナイノハ薬品トシ必須缺クベカラザルモノモ一般ニ重要視セラレズ又無クモガナト思ハルモノガ堂々ト巾ヲキカシテキルコトデアル、其著シキモノヲ例示セバ、わうれん、せんぶり、せんな、かんざう、だいわう、さふらん、りんだう、かみつれノ如キハ日本薬局方ニモ收載セラレ數十數百數千年來醫藥トシテ使用サレタモノヲ民間藥ニ入レ、にくけいノ樹皮ハ古來東西醫學ノ要藥ナルモ一モ醫藥ト記スルナク只〇書ガ工業藥品條下ノ欄外ニ小字ニテ藥用ト記スルノミ、はしりどころノ根莖ハ所謂莢若根トシテ其製劑「ロートエキス」ハ何レノ藥局何レノ醫師モ用ヒザルコトナキ醫藥兩界ノ花形役者ナルニI書ノ外之ヲ藥用ト記スルモノナクADHJ書ガ之ヲ有毒植物ト記スルノミ、たうき、せんきう、からすびしゃくノ如キハ漢方醫學數千年來ノ要藥ニシテ今尙必須缺クベカラザルモノヲ或ハ成分不明ノ民間藥トシ或ハ無用ノ有毒植物トナスくずハ其根ガ有名ナル葛根湯ノ主藥トシテ數千年來醫藥界ニ用ヒラルル事實ヲ記スルモノナク、あんずノ種子ハ杏仁トシテ漢方醫學ノ要藥又之ヨリ作レル杏仁水ハ洋方醫學ノ必需品ナルニI書ノ外之ヲ藥用トスルモノナシ、之ニ反シさくら、あめりかありたさうノ如キ最近教年前漸ク醫學界ニ入りシニ過ギザルニ早々之ヲ列記スルガ如キ認識不足ガアル

きなのき 樹皮ヲキナ皮ト稱シ其儘煎ジテ健胃強壯劑解熱劑トシ樹皮ヨリ「キニ「ネ」ヲ造リテ主トシテ解熱劑

トス、殊ニ間歇熱即チ「マラリヤ」ノ特効藥トル、ACGK書ニアル「規那鹽」ノ名ハ今使用少ナキヲ以テ「キニーネ」トスベク又諸書ニ「マラリヤ」ニ用フルハ「キニーネ」ノミノ如ク記スルハ穩當ナラズシテ樹皮モ同効アリ、E書ニ「キニン」ト記スハ耳障リニシテF書ノ「キニイネ」ハ「キニーネ」トスベクH書ノあかさなのきト限レルハ無用ニシテ藥局方ニ於テモ「Cinchona 屬ノ諸種」トアリ又「キナエン」トセルハ今ハ俗語トナリ一般ニハ「キニーネ」ヲ用フ、因ニ「キニーネ」ハ和蘭語 Kinine デアッテ「キナエン」トセルハ或ハ英語ノ Quinine ノ轉カ

けし 阿片モ「モルヒネ」モ共ニ麻酔劑、鎮痛劑トシテ用フ、尤モ阿片ハ止瀉劑ヲ兼ネル、D書ノ麻酔劑ハ麻トスペクE書ノ「モルフィン」ハ「モルヒネ」ト書クベクH書ノ「ナルコチン」ハ「モルヒネ」ニ次グ阿片ノ主要成分ナルモ Narcotica 卽チ麻酔作用ハナイ、ツマリ此命名ハ不適當デアツタノデアル、A書阿片カラ造ルモノニ「モルヒネ」ヲ舉ゲズニ「ペントポン」其他ヲ舉ゲルノハ不可デアル、「モルヒネ」ハ和蘭語ノ Morphine ノ發音デアル

ちぎたりす コレハ葉ヲ其マヽ用ヒ或ハヨレヲ「チンキ」トシ又ソレカラ成分ヲ取り出シテモ用ヒルガ其成分ニハ種々アツテ又ソレガ種々ナ議論ガアルモノデアルカラ一般的ニハ葉ヲスグ藥用トストシタ方ガ穩當デアル從ツテ應用ハ「葉ヲ心臟強壯藥トス」ト訂正スペキデアル、G書ノ「利尿作用」ハ特殊ノ場合ニ限ルカラ除イタ方ガイイ、H書ノ「ヂギタリン」ハ必ズシモ主成分ナラズ、J書藥用ニハ「チンキ」劑バカリデハナイ

くすのき 主トシテ幹材ヲ蒸餾シテ樟腦ヲ採ルノデ葉ヤ莖ハ用ヒナイ、E書ノ「カンホルチンキ」ハ「カンフルチンキ」トスベク、H書ノ「從來ハ樟カラ採ツタガ今日デハ化學的ニ人造サレル」トアルガ人造品ハ其品質價格ガマダ天然品ニ及バナイ、マダマダ日本臺灣產ノ天然品ガ世界ノ市場ヲ支配シテキルガ極メテ近キ將來ニ御希望通リニナル、尙樟腦ノ應用ハ鎮痙攣靜デアツテ鎮痛劑ハ「カンフルチンキ」トシテ外用スルトキニ限

ル、又樟腦ノ大ナル需要ハ「セルロイド」等ノ工業用デアル

はくか

○書ニ工業植物ニ入ツテキルガ之ハ藥用ノ方ガ多イ、薄荷油ハ驅風、健胃、興奮劑トシ薄荷腦ハ興奮

こか

葉ヲ其ママ使フコトハナイ「コカイン」ノ原料トスルノミデアル、「コカイン」ハ眼科歯科ノミナラズ一般

ノ局處麻酔藥デアル、EGK書ノ局部麻酔藥ハ局處麻酔藥トスベキデアル

むしよけぎく

しろばなトあかばなトアルガシロハ效力強キモ植物ガ弱クあかハ強イガ收穫量少ナク效力モ弱

イノデ一般ニハ栽培サレナイ、蚊遣線香ニスルハ必ズシモ莖葉バカリデハナイ花モ用ヒル

たうごま

種子ヲ絞シテ得タ油ヲヒマシ油(蓖麻子油)ト稱シ下劑トスル、又工業用ノ塗料ニ用ヒル

しなよもぎ

花蕾ヲ其ママデ「シナ花」又ハ「セメンシナ」ト稱シテ藥用トシ又ソレカラ「サントニン」ヲ造ル、

共ニ蛔蟲蟻蟲ノ驅除劑デアル、E書ニ植物名せめんしなトアルガ Semen Chinæ ハ藥學デハ花蕾(頭狀花序)

ノコトヲイフ

さふらん

花ノ雌藥ノ基部ノ黃色部ヲナルベク除去シ赤色部ダケヲ摘シテ乾カシタモノデ我國產デ殆ド内地ノ

需用ヲ充シテキル、應用ハ婦人藥ノ鎮靜藥トスル又無害ノ黃色着色料トスル、A書ノ雄藥ハ雌藥ノ誤植ナルベク、F書ノ「強壯劑」、K書ノ「健胃劑」ハ共ニ不可ニシテG書ノ「柱頭及ビ花柱」ハ必ズシモ正確ナラズ

かみつれ

花ヲ其ママデ發汗驅風藥トスル、J書ノかみるれハ和蘭語ノ Kamille カラ來タ正名デアルガコレ

ガ又「カミツレ」トモ發音シ此小字ノ「ツ」ガ屢々大字ニ昇格シタメニ「カミツレ」トナリ今ハコノ方ガ正式ノ日本語トナツテシマツタ、故ニワザ／＼かみるれトスル必要ガナイ

をしだ

根莖ヲ其マ、用ヒルコトナク之カラ「エキス」ヲ作リ「綿馬エキス」ト稱シテ繭蟲、十二指腸蟲驅除ニ用

ヒル、D書西洋ノめんまトアルガ日本ノをしだヲ今ハ用ヒル

かんざう 根ヲ緩和剤トスル、西洋醫學漢方醫學共ニ有力ナル藥劑デ我國ニハ產セズ滿洲國ノ蒙古ニハ澤山アル、A書丸藥ノ衣ダケデハナイ、アラユル製劑ノ賦形藥トナリ又咽喉痛ナドノ要藥デアル、又かんざうノ成分トシテ葡萄糖ノミヲ舉ゲ其甘味ガ葡萄糖カラ來ルガ如ク記載スルノハ不可デアル、甘草ノ甘味ハ植物性甘味質中最モ甘シト稱セラルル「グリシルリジン」ナル配糖體ノタメデソレガ五乃至八%モ含ムモノデアル、B書民間藥デハナイ、D書有效成分不明ノ民間藥デハナイ有效成分既知ノ局方藥デアル

あらびやごむのき 「アラビヤゴム」ヲ採リ藥品(粘漿劑)ヤ糊ニスルガ絆創膏ニハナラナイ、絹絆創膏ハ魚膠ニテ造リ、ゴム絆創膏ハ「インドゴム」即チ彈力ゴムデアル、J書ノ植物名ごむあかしやハ「アラビヤゴム」其物ノ名稱デアル

だいわう 根莖ヲ健胃下劑トス我國ニハ產セズ支那四川省邊カラ滿洲北部ニカケテ生ズル、B書ノ民間藥デハナイ西洋醫學漢方醫學共ニ重要ナル藥品デ殊ニ漢方醫學ニ於テハ一名將軍トモ稱スル程重要ナ諸藥ノ將軍デアル、H書ノ少ナクモ日本ニハ栽培サレテキナイ、用フルノハ根莖デアル根ト莖トヲ離シテハ工合ガワルイひかげのかづら 胞子ヲ石松子ト稱シ其ママ丸劑ノ衣トスル

せんな 葉ヲ其ママ緩下劑トスル我國ニハ產シナイ、A書ノ民間藥デハナイ局方藥デアル

とこん 根ハ即チ吐根デアル我國ニハ產シナイ祛痰劑トス

にくけい 樹皮ハ桂皮(古クハ桂枝)ト稱シ有名ナル漢方醫藥デアツテ感冒ノ頭痛發熱惡寒スルモノニ發汗劑トス又日本藥局方ニモ收載セラレタル局方藥デアル

あめりかありたさう 果實ヲ帶ビタル莖ト葉ヲ蒸溜シテ「ヘノポヂ油」ヲ採リ十二指腸蟲ノ驅除藥トス此「ヘノポヂ油」ハ最近ノ局方藥デアル、G書ノありたさうデハナイ

せねが 根ヲ祛痰藥トス我國ニハ產シナイ、祛痰劑ハ痰ヲ去ルノデ咳ノ藥ノ鎮咳劑トハ意味ガ異ナル

げんちあな 根ヲ苦味健胃剤トス外國產デアル、りんだうノ根ハ其ノ代用藥デアル

あんず 種子中ノ仁ヲ杏仁ト稱シ鎮咳剤トス漢方醫學ノ要藥デアル、杏仁水ハ之カラ作ル
やらば 球根ヲ下劑トス外國產デアル又根ニ含ム樹脂ヲ「ヤラバ脂」ト稱シ下劑トスル

麥角 日本デハかもじぐさナドニツク一種ノ菌體デアル、止血劑トス

おれいふ 果實カラ得タ油ヲ「オレーフ油」ト稱シ塗布劑、油劑等ノ賦形藥トスル、大部分外國產デアル、藥

用名ハ和蘭語 Olie 「オレーフ」ヲ用ヒル、「オリーブ」トイフト色ノ名トナル
せんぶり 全草ヲ藥用トスげんちあな根ニ代用ス其苦味十倍スル、千度振り出シテモマダ苦イノデせんぶりト
イフ、日本藥局方名ハ當藥デアル、A H書ノ民間藥デハナイ局方藥デアル、C D書ノ下痢止デハナイ健胃劑
デアル

わうれん 根ヲ健胃剤トス日本藥局方ニ收載セラレ「コロンボ根」ノ代用トスル、又漢方醫學ノ重要ナル藥品
デアル、A B H書ノ民間藥デハナイ局方藥デアル

りんだう 根ヲげんちあな根ニ代用ス日本藥局方ニ收載セラレテキル健胃剤トシテ最モ有名ナルモノデアル醫
師ノ處方ニ健末ト書スルハ此りんだうノ根即チ龍膽カ或ハ前述ノげんちあな根ノ粉末デアル、健ハ「ゲン」デ
蘭方時代ノ當字デアル、B H書ノ民間藥デハナイ局方藥デアル、H書ノ浸劑ニハシナイ多クハ散剤デアル
てうせんあさがほ やうしゅ (Datura Tatula L.) トしろばなやうしゅ (D. Stramonium L.) ノ葉ヲ其マ、喘息
ノ喫藥トスル、日本藥局方ニ收載セラレ、一般ニ此葉ヲ蔭干ニシ濃硝石液ニ浸シ乾カシテ刻ミ火ヲ付ケ又ハ
之ヲ卷煙草トシテ喘息煙草ト稱スル、其他ノてうせんあさがほデモ有效デアル、D書ノ煙草ニ混ジテ用フハ
正式ノ用法デハナイ、F書ノ「種子ニ」、H書ノ「殊ニ種子ニ多イ」ワケデハナイ葉ニモ同様ニ多イ
ばしりどころ 根莖ヲ莢若ト稱シ西洋ノ「ベラドンナ根」ニ代用スル立派ナ局方藥デアル鎮痛鎮痙剤トスル
醫師

ノ處方ニアル「ロートエキス」ハ此根ノ「エキス」デアル又「アトロピン」ナル要藥ノ原料トスル

にんじん 卽チあたねにんじん、てうせんにんじんノ根デアル、朝鮮滿洲ノ原產ナルモ今ハ長野福島縣地方ニ盛ニ栽培シテキル、漢方醫學ニ於テハ虛弱者ノ健胃強壯劑トスル、A B 書民間藥デハナイ漢方醫學ノ表看板デアツテ之ヲ購ハンガ爲メニ屢々娘ヲ賣ツタモノデアル、H 書ノくすりにんじんノ和名ハ一般ニ使ハナイ、又最モ有效ナルハ五六年目ト限ラナイ

まくり 全草ヲ其ママ藥用トス普通之ニ甘草ト大黃ヲ入レ煎ジテ蛔蟲驅除藥トスル

きからすうり 根(括萎根)、種子(括萎仁)ヲ藥用トシ其根ノ澱粉ヲ天瓜粉又ハ天花粉ト稱シ汗打粉トスル、K 書ノ天華粉ハ一般ニ天花粉ト書ク

せんきう 川芎即チ支那四川產ノ芎藭ノ意デアル、我國中部南部及び東北地方ニ栽培スル強壯劑ニシテ貧血ニ用ヒル、D 書民間藥デハナイ漢方醫學ノ要藥デアル、我日本ニハ野生ハナイ

すひかづら 全草ヲ忍冬ト稱シ花ヲ金銀花ト稱シ共ニ利尿劑トス

おほばこ 全草ヲ車前葉、種子ヲ車前子ト稱シ利尿藥トスル殊ニ種子ハ眼病ニ用フル、I 書ノ民間藥デハナイ

漢法ノ要藥デアル

たうき 根ヲ當歸ト稱シ川芎ト同様貧血ノ強壯劑トス婦人藥ニ入ル漢方ノ要藥デアル

げんのしょうこ 全草ヲ其ママ用フ民間ニ廣ク用ヒラレテキルガ西洋醫學デモ漢方醫學デモ用ヒナイ止瀉劑トシテ用ヒル、最近所謂新藥ヲコレカラ造ツテ賣ツテキル、シカシ此新藥ナルモノハ彗星ノ如ク此世ニ來リ彗星ノ如ク此世ヲ去ルノデ永續性アルモノ少ナイ、H 書ノ妙藥ヲ除ク

にんにく 此頃新聞雜誌デ宣傳シテキルノデアルガ醫藥トシテモ民間デモ特ニ藥品トシテハ使用シナイモノデアル

にはとこ 葉莖花皆薬用トスルガアマリ用ヒラレナイ

さくら 一二ノ會社ガ此樹皮ヲ咳止藥トシテ賣ツテキル

あせび 葉ヲ用ヒルノデアルガ賣品ニハ殆ドナイ

どくだみ 全草ヲ其ママ藥用トス腫物等ノ毒下シトスル、藥店ニテ十藥トイフ十ノ藥ニ代用スルカラデアル、げんのしょうコト共ニ民間デ最モ多ク用ヒラルモノデアル

まちん 其種子ヲ番木籠又ハ馬錢子ト稱シ其ママ又ハ其エキスヲ藥用トス、神經系統ノ興奮劑デアル又「ストリキニーネ」ノ原料トスル、外國產デアル、馬錢子ヲ「ラテン名 *Nux vomica* トイフ此 *vomica* ヲ和蘭語デ「ホミカ」ト呼ンデ一般ニ「ホミカ」「ホミカエキス」ナドト稱スル、重要ナル局方藥デアル

とりかぶと 球根ヲ烏頭及ビ附子ト稱シ神經痛リウマチスノ鎮痛劑トシ其他四肢冷エ、惡寒等ニ用ヒル漢方醫學ノ重要ナル藥品デアル、B書ノ「モト麻醉藥」デハナイ「イマ鎮痛藥」デアル、尤モ麻醉ノ效モアルカラ鎮痛ニナル

てんなんしやう 根莖ヲ藥用トス鎮痙攣藥デアルガアマリ用ヒナイ、F書ノ「主ニ葉ニ」ハ當ラナイ

からすびしやく 球根ヲ半夏ト稱シ鎮嘔劑トシテ用ヒル、漢方醫學ノ最モ多ク使用スル藥品ノ一デアル

やまごばう 根ヲ商陸ト稱シ水腫等ノ下劑トス

ひがんばな 根ヲ石蒜ト稱シ近來コレカラ新藥ヲ製シ咳ノ藥ニ賣ツテキル

くさのわう 全草ヲ胃癌ニ效アリトシテ一時用ヒラレタガ今ハ全然廢ツテキル

まむしぐさ 根ヲ同ジク天南星トシテ用フ

とうだいぐさ 葉莖ヲ水腫ノ藥トス

つたうるし 葉ヲ西洋ニテ麻醉藥トス

いぬほほづき

葉莖ヲ利尿劑トス

根ヲ天南星ト同様ニ用フ

うらしまさう

根ヲ天南星ト同様ニ用フ

A 書中べにばなノ花冠ハ漢方ノ有名ナ紅花デアル、たうごまノ種子ノ油ハ精製シナクモ「ヒマシ油」デアリ、はくかノ脚註ニ最近外國カラ來タ賣藥名ナドヲ舉ゲルノハ無用ナルベク民間藥ノ條下「副作用ガナイ」ガ二個所モアルガ無イノハ副作用ガアル様ニ思ハシメル處ガアル、「てうせんあさがほノ類カラ外科用ノ麻醉藥ヲ採ル」ハ「ヒヨスチアミン」ト「アトロビン」ヲイフナランモ「ヒヨスチアミン」ハ需要少ナク「アトロビン」ハはしりどころヨリ製スルヲ常トス「其葉ヲ喘息煙草ニ作ル」位デヨロシカロウト思フ

B 書はとむぎハ其實ノ殼ヲ去ツテ薏苡仁ト稱シ皮膚ノ荒レヤ疣取りノ内服藥トシテ漢方醫學ノ有名ナ藥劑デアルリ、じやのひげノ地下ノ「連珠狀ノ根」ヲ採リ麥門冬ト稱シ肺病ノ咳ノ藥トシテ漢方ノ要藥デアル

F 書「かなだばるさむのきノ果實カラバルサムヲ取ル」ハ「バルサム」ハ樹幹カラ流レ出ヅルノデアル

H 書「特效成分」ハ「有效成分」トスベク「生藥ハ一般ニ製藥ヨリモ效能ガ多イ」ノ製藥トハ取り出シタ有效成分ノ意カ、有效成分ハ原生藥ヨリモ用量正確ナルモ其作用偏倚シテ中毒症狀ヲ呈スルコト多ク治病的ニハ一般的ニエ效多シトハイヘナイ

I 書和漢醫學ノ藥品ヲ民間藥ト見做スハ不當デアル

J 書植物名ごむあかしあトアルガ上ニ既ニ述ベタ通リ藥學デハ取り出シタ「アラビヤゴム」其物ヲイフ
K 書ノ「タカヂアスター」ハ一會社ノ專賣名ナレバ一般名ノ「ヂアスター」トスベキデアル

中等教科書ニアル藥用植物ハ前記ノ通リデアルガ吾人カラ見レバモット重要ナ醫藥トシテ繁用サレ我國到ル處
產シシカモ何程アツテモ市場デ消化サレルモノガ多數アル、其内重要ナモノヲ舉ゲテ見ルト

しゃうが

根莖ヲ鎮嘔劑トス

ききやう 根ヲ祛痰劑トスせねが根ニ代用シ日本藥局方ニモ收載セラレテキル
かはらけつめい 葉莖ヲ利尿劑トス、山扁豆、濱茶、きつねざる(きつねのびんざるカラノ)等ノ名デ行ハル

しゃくやく 根ヲ收斂劑トス

なつめ 果實ヲ緩和劑トス

みしまさいこ 根ヲ解熱藥トス

よもぎ 莖葉ヲ止血強壯劑トス

をけら 根ヲ蒼朮白朮ト稱シ利尿劑トス

ぶくりやう 松ノ根ニ生ズル菌體デ強心利尿劑トス

もも 種子仁ヲ惡血驅除劑トス

以上ハ私ノ妄評デアルガ我國ノ藥用植物ニ付キ中等教員諸氏ノ多少トモ參考トナルヲ得バ望外ノ幸デアル

○Lichenノ譯語ニ就テ述べル

佐藤正己

現在日本デハ「地衣」ト云ヘバ Lichen の譯語トシテ通用シテキルガ何時頃カラ用ヒラレタカハ一寸面倒ナ問題デアル、一體カウ云ウ故事來歴ハ白井先生ヤ牧野先生ノ御領分デ小生如キ若輩ノ分ルコトデハナイガ牧野先生御所藏ノ古書珍本ヲ見セテイタバク事ガデキタノデ一寸書イテ見ルコトニシタ
 ソモク「地衣」ハモト Lichen ヲ意味スルモノデハナカツタ、地衣草トシテ始メテ『日華諸家本草』ニ著錄ナレ「此乃陰濕地被日晒起苔蘚也」ト註釋サレ、或ハ「即濕地上苔衣如草狀者耳」ノ解說モアル、之カラ考ヘ